



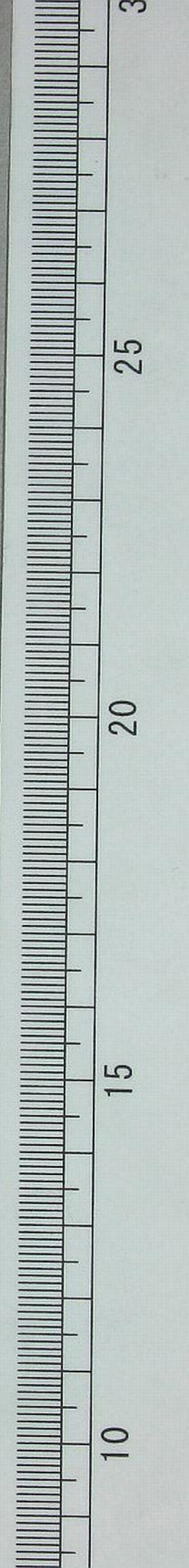
楊梅園花巻



明良二葉抄四編

万亭應賀作

澤村板





きよの上

明良二葉村四偏

万亭應賀作

澤村板

鳳来寺

A623  
7

隅の田の景



行先

雨天秤り

この名を

本母寫と

洒落る

物持

万亭應賀

明良二葉州四編

上の巻

春日の局九死とたむる靈夢  
 を見ゆ事  
 竹千代君の御部屋の入口ふ  
 たびく棄物ある事  
 竹千代君の於未女中君の  
 古郷の葉師佛を祈る  
 事并憤発の怨念を局よ  
 述る事  
 春日の局於未女中み三州  
 鳳來寺の由緒を尋ゆ事

下の巻

春日の局靈夢と感得  
 駿府へかりむた大御所の拜  
 面を思ひ立事  
 同人伊勢参宮の願と出して  
 御暇出さる事  
 一の老女大姥の方へ春日の局  
 御暇を押し頼む事  
 大姥の方局へ内密の異見と  
 述る事  
 春日の局奇計とめぐる事

万亭應賀誌

二葉州四上

42-9571

大姥の方

此方の二代君の元乳母を將軍家の御尊敬まゝ毎月茶の子と賜る自分も

又毎月飯と大平切ふりつて自らお手を取て

涙余ふるまふ本多佐渡守見られたる

くしほしほれ身三州の賤者

よしが上様乳と上のまがく結構み

まれど其昔と忘れぬかくの如貴殿も弥公郎の時と忘れぬ大切の御奉公の覚束はと答られとありとも



稲葉丹後守正勝

此臣の父

へ稲葉

佐渡

守

春日の局

あり幼年

徳川將軍家へ召出され

始めに常陸柳が岡あて五千石

領せらまゝが志をく誠忠ありて禄とまねへ

嫡子鶴千代丸

△終ふ従四位

侍従

昇り

あり

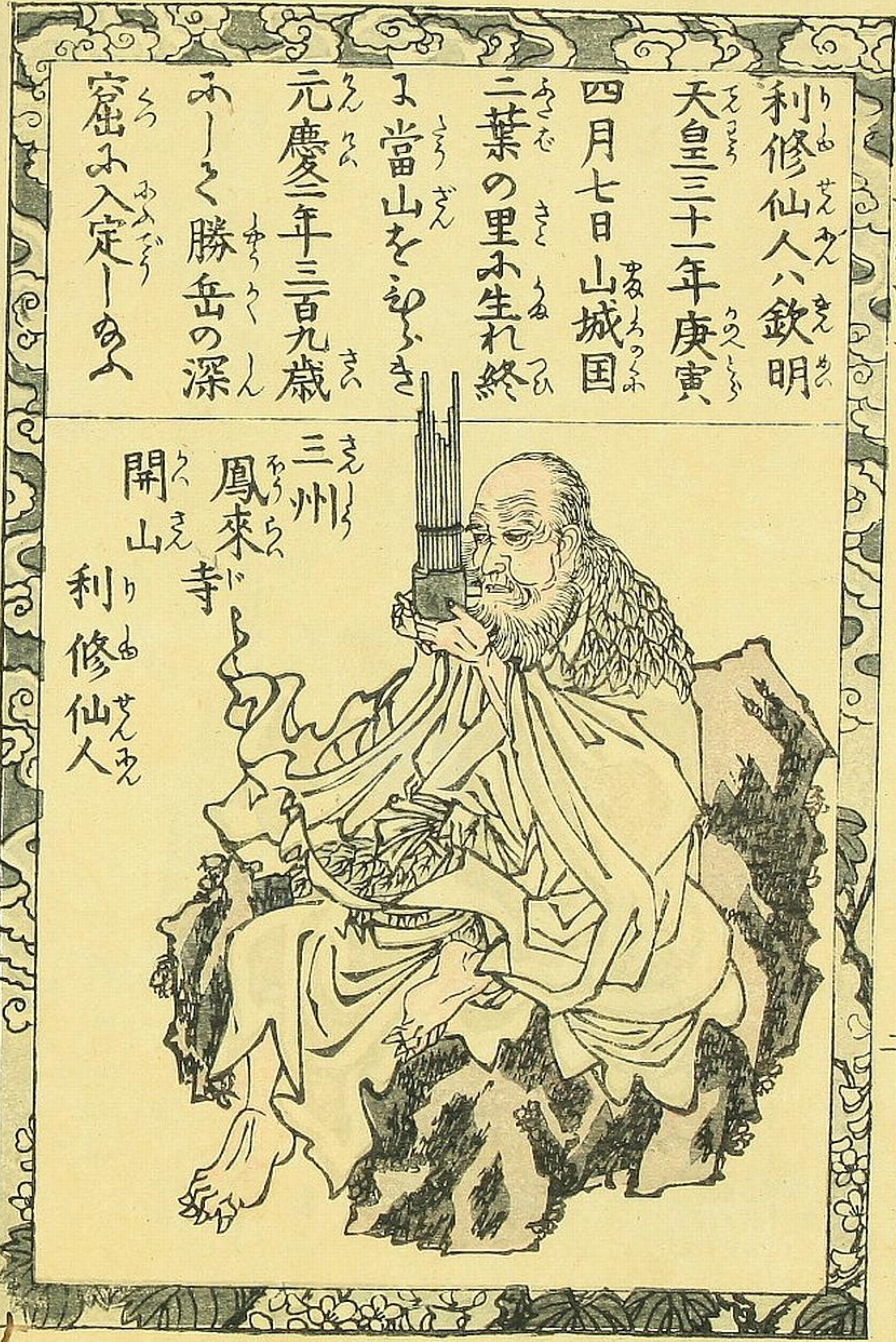


四編上



二葉中四上

三



二葉中四上

一









二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十



二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

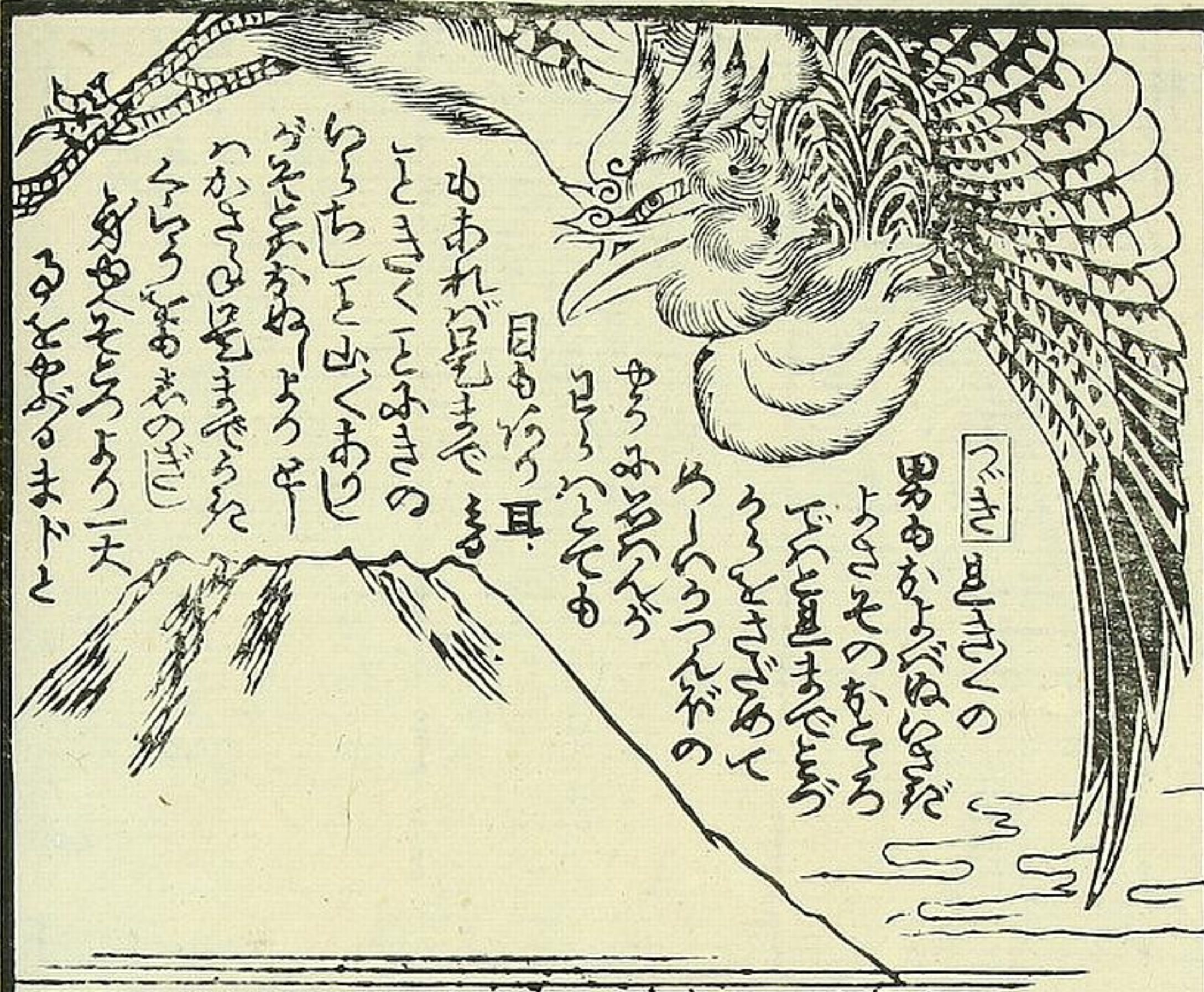


二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

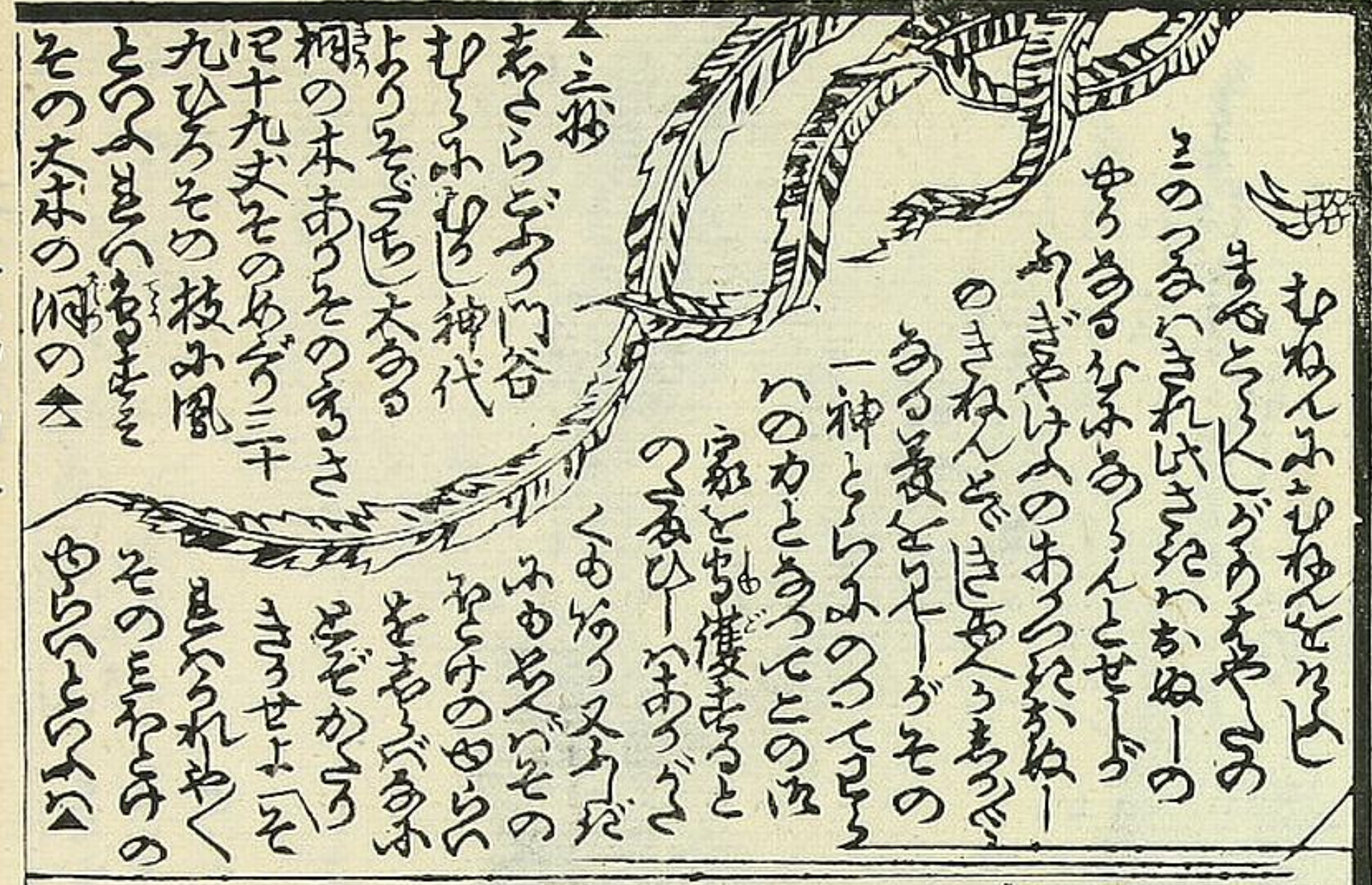
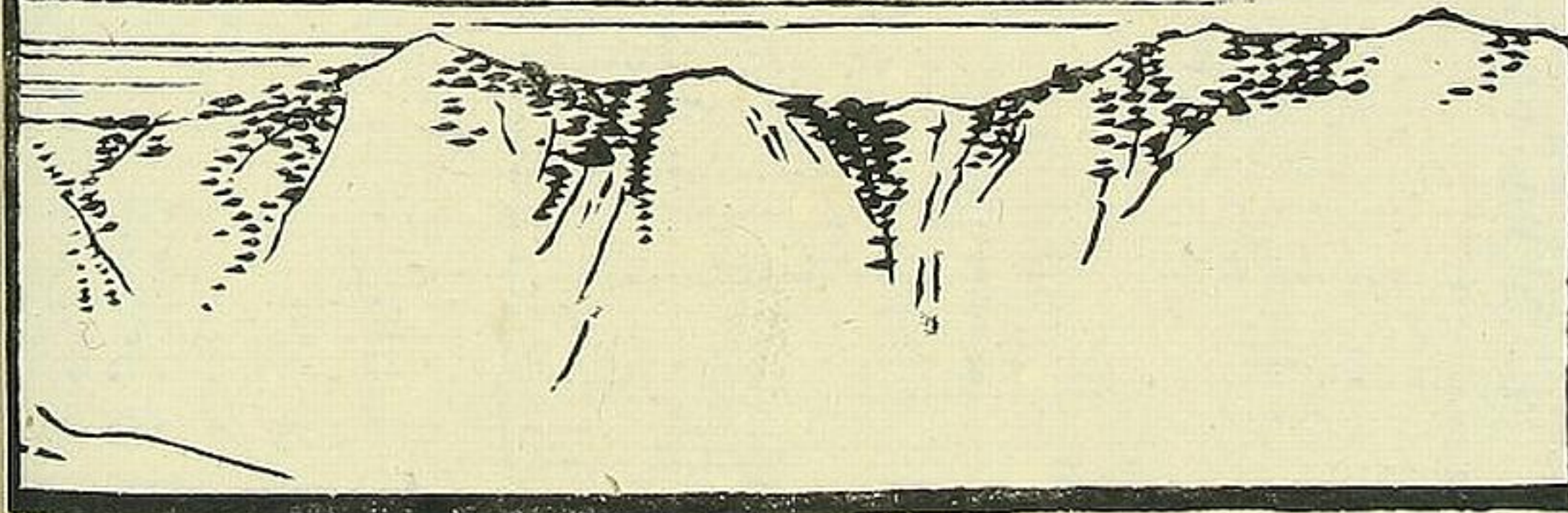




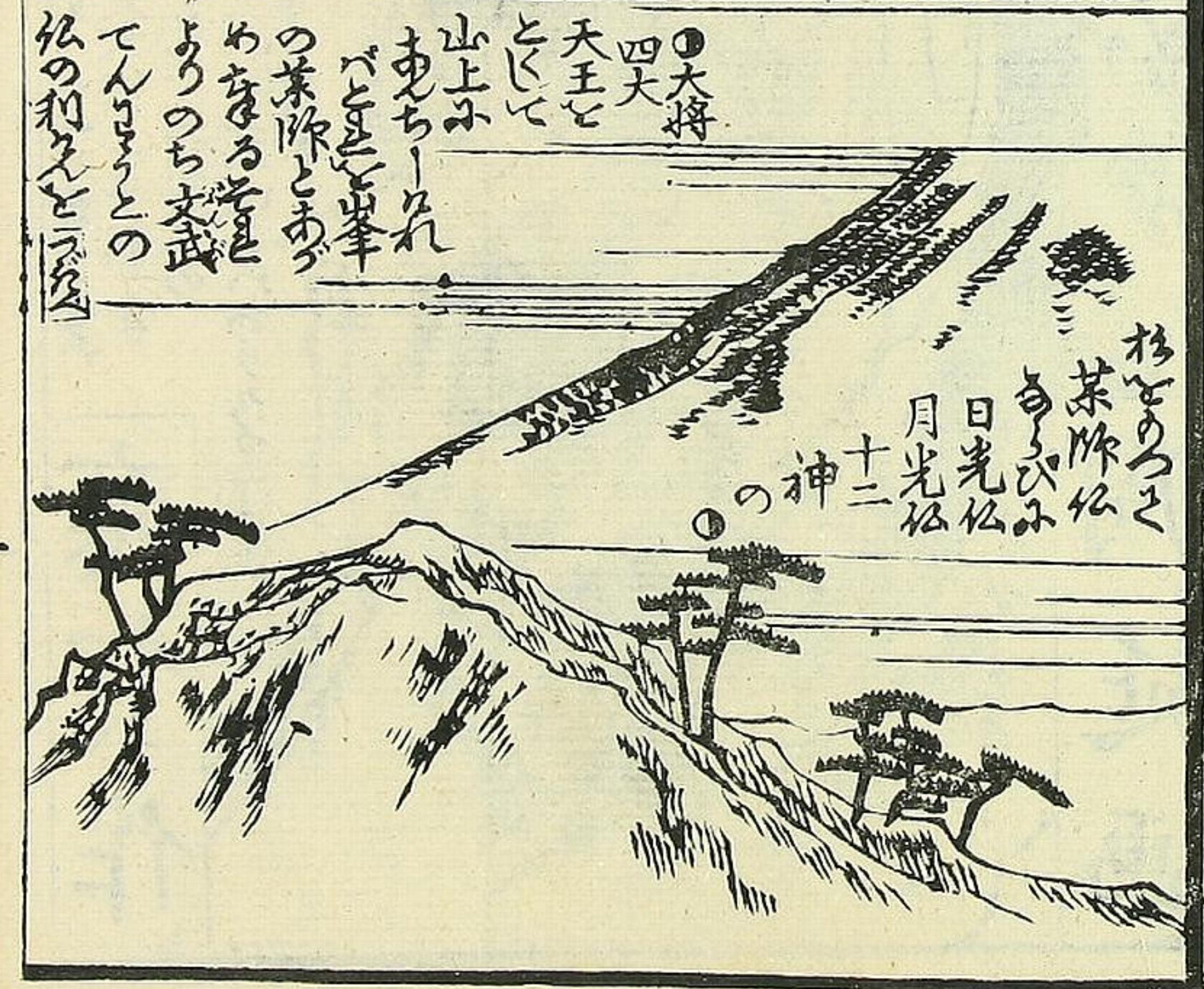


鳳の鳴き声は  
東方の空を  
響かせしむ  
天の宮に  
上りて  
舞を舞はせしむ  
其の姿は  
五色の雲に  
似たり  
其の鳴きは  
千鳥の如し  
其の舞は  
百鳥の如し  
其の姿は  
百鳥の如し  
其の鳴きは  
千鳥の如し

山中の風の  
名はく  
利修仙人と  
りそのの  
みうと推古  
天皇入奏  
一風の  
たる尾を  
とけん  
て見  
く東  
文とく  
る吉  
あつと  
修仙人  
の



龍の姿は  
千変万化  
其の力は  
天を穿つ  
其の力は  
地を穿つ  
其の力は  
海を穿つ  
其の力は  
空を穿つ  
其の力は  
地を穿つ  
其の力は  
海を穿つ  
其の力は  
空を穿つ  
其の力は  
地を穿つ  
其の力は  
海を穿つ  
其の力は  
空を穿つ



●大将  
四大  
天王と  
とくに  
山上  
あち  
の  
なる  
よりの  
てん  
松の  
茶  
日光  
月光  
神  
の

三葉中四

つぎ  
あゆめありておぼやて松山をうごめ  
の物命ありて大室の羊猪舎  
そのひてと別分一の

下巻へく

應賀作



利修仙人

周延画

明良二葉州

初編より追々出版

朝鮮異聞 四冊 續切

繪奉一代紀物 品々

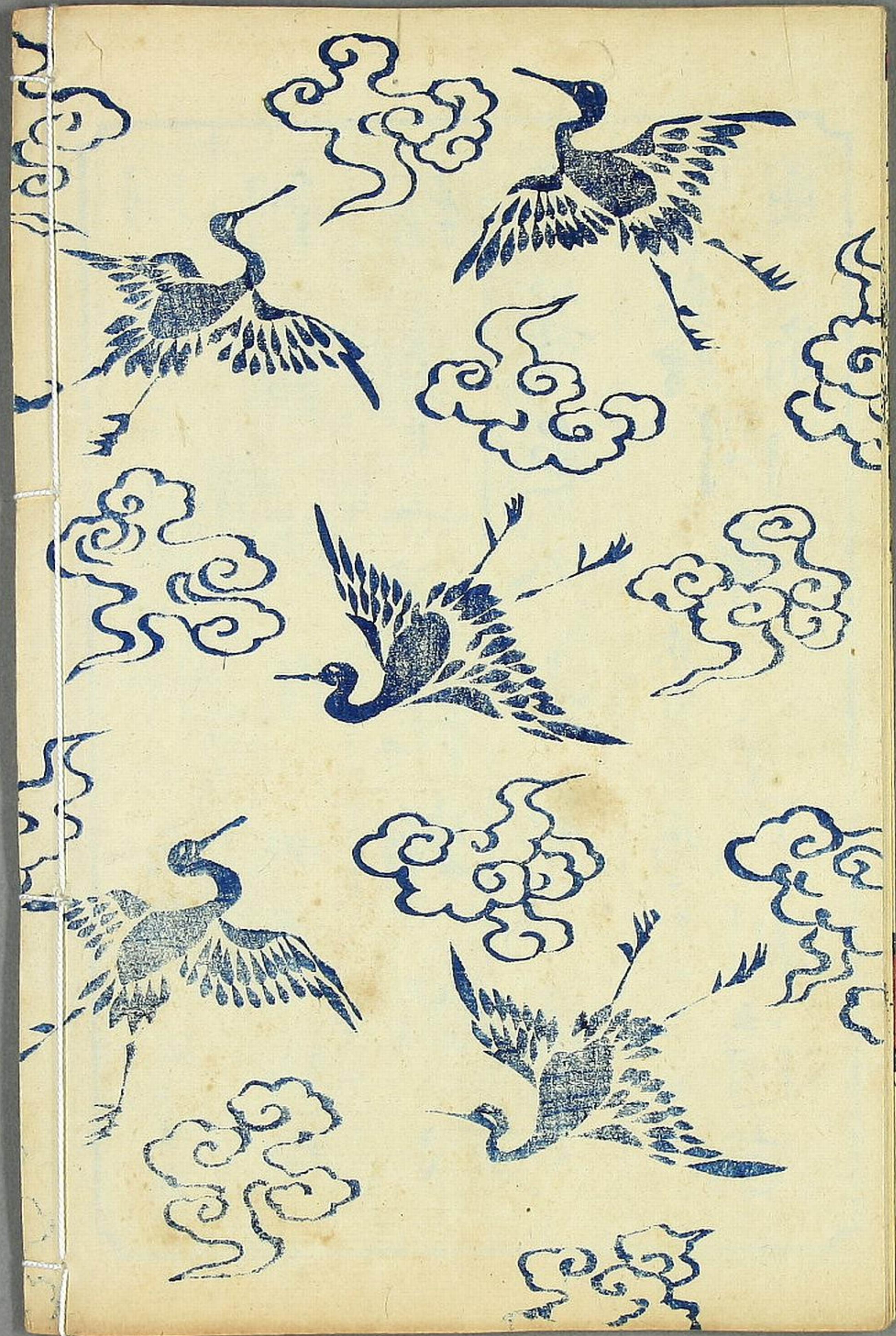
上等色入小本 品々

地本錦繪

東京日本橋区本銀町二丁目角

團扇 問屋 武川清吉

010190515538





景の國兩



すのぼんと

花火

りゆうぐ

兩國の

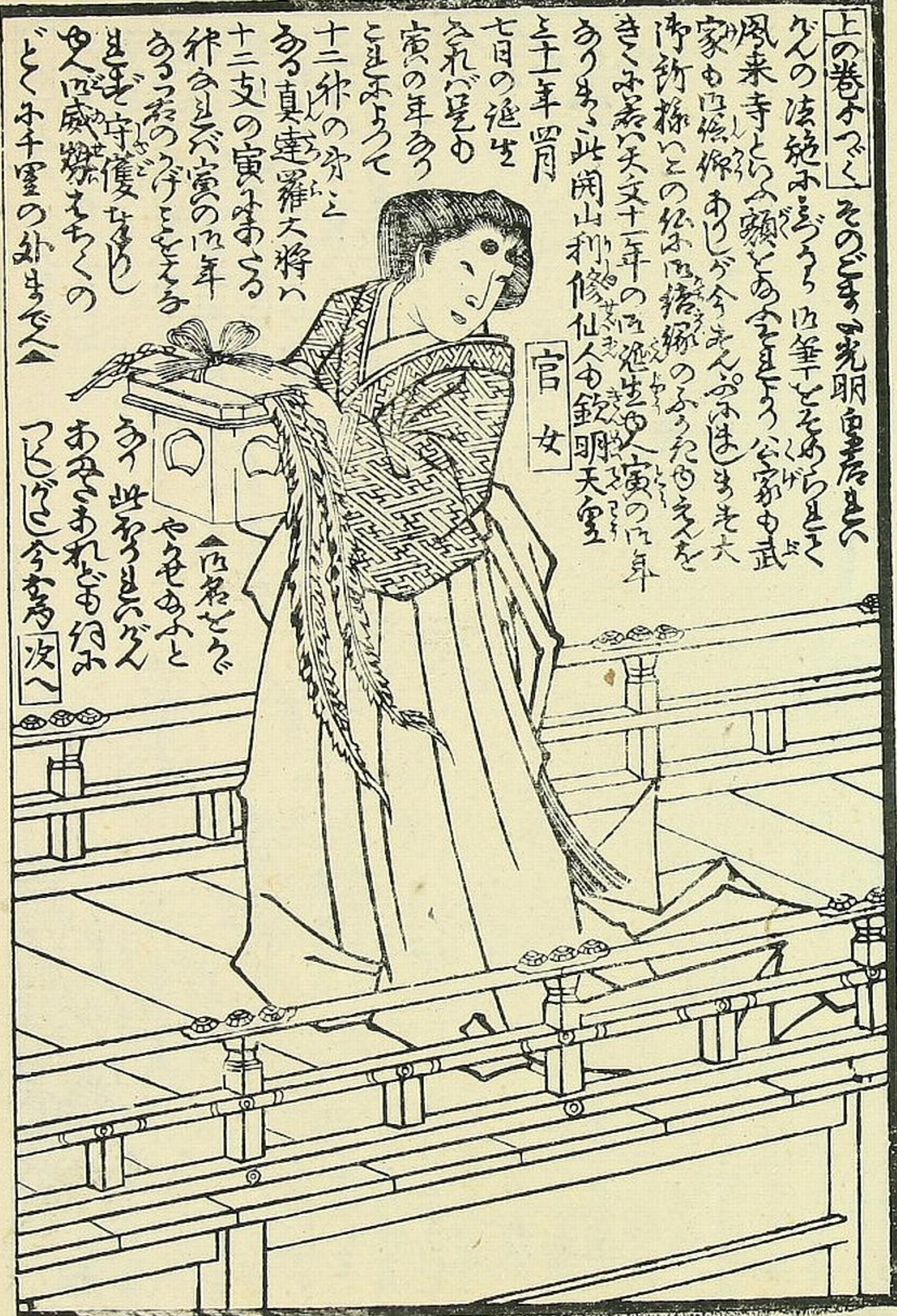
浪間

おとく月ぞ

あゝ

万喜應賀

下編四



上の巻につくそのまゝの光明寺の  
 久の法鏡ふらふらひ筆十とそめりしと  
 風来寺といふ頼どあふま下り公家由武  
 家由四條傳ありが今せんがはほまそ大  
 浄新様いこのははは結縁のふうたゆえを  
 きくみ若天文十五年のははは生の人寅のは年  
 ありも此開山利修仙人の鏡明天皇  
 と十五年四月

官女

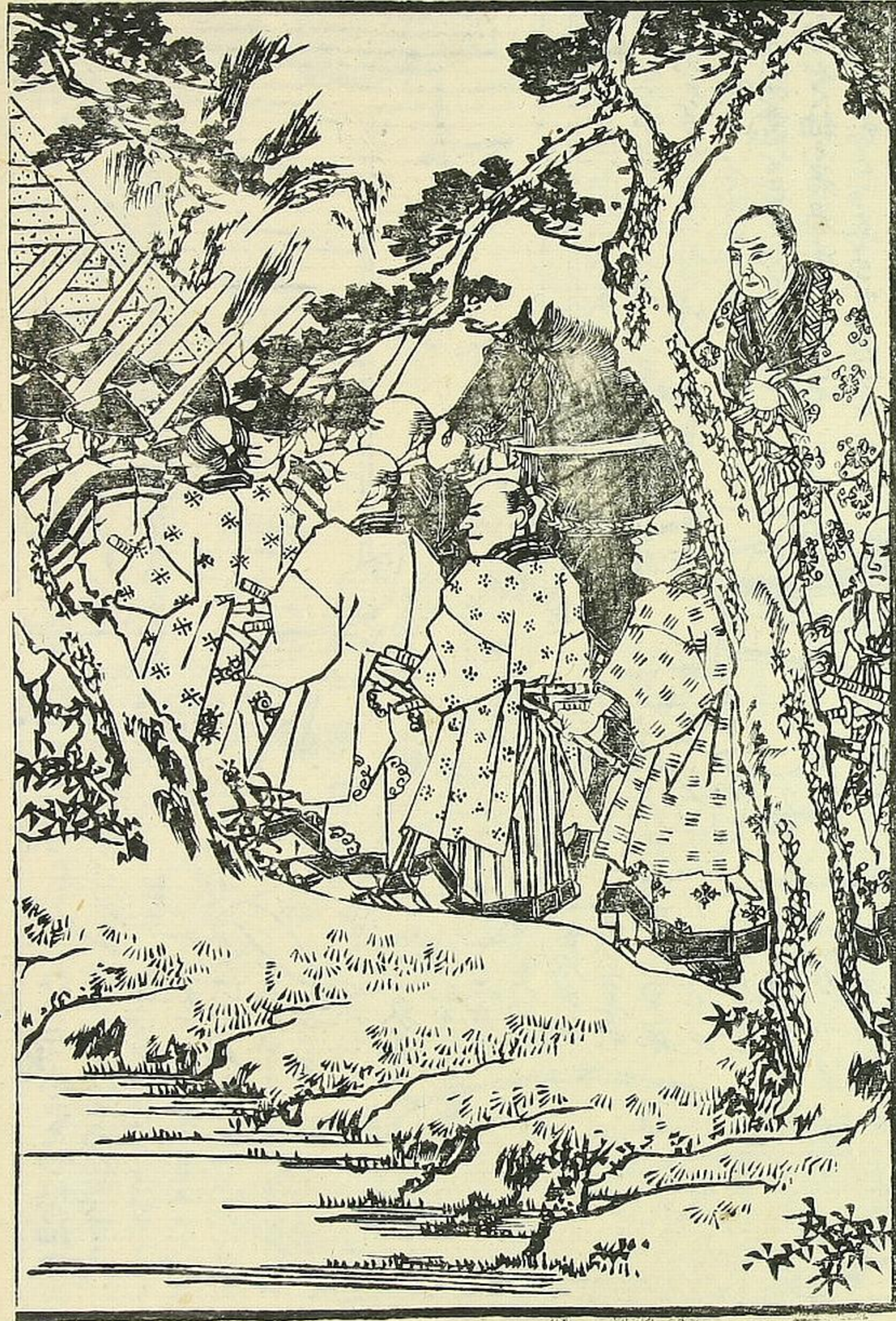
七日の徳生  
 されは星の  
 寅の年あり  
 とまふうて  
 十二外のかと  
 ある真蓮羅大将  
 十二支の寅の四年  
 外あり六寅の四年  
 あつたのうけとそそ  
 且守復せりし  
 又四威勢をちくの  
 とく小千重の外まて

はるどろ  
 やうせふと  
 あつたあはれふゆふ  
 正に今を夜へ

二書下中四下







慶長三年正月  
 徳川家康公瑞  
 夢と感ずられて  
 石清水八幡宮へ  
 御参詣

家康公

二冊四下



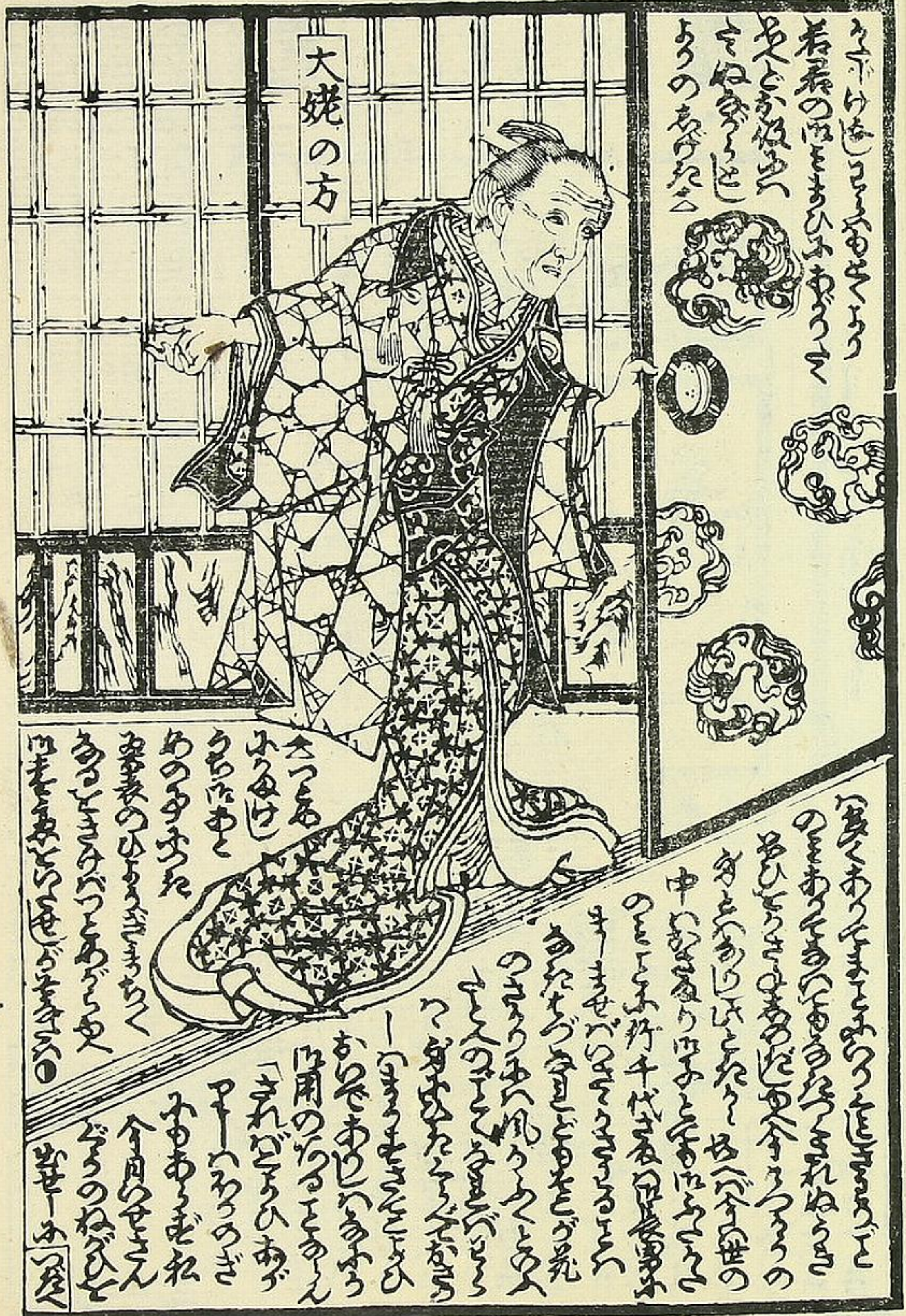






大焼の方  
 若者  
 大焼の方  
 若者

大焼の方  
 若者  
 大焼の方  
 若者



大焼の方  
 若者  
 大焼の方  
 若者

大焼の方  
 若者  
 大焼の方  
 若者







ついでに  
せきふらふらの  
なまのそら  
よりなまのそら  
いかにみよお



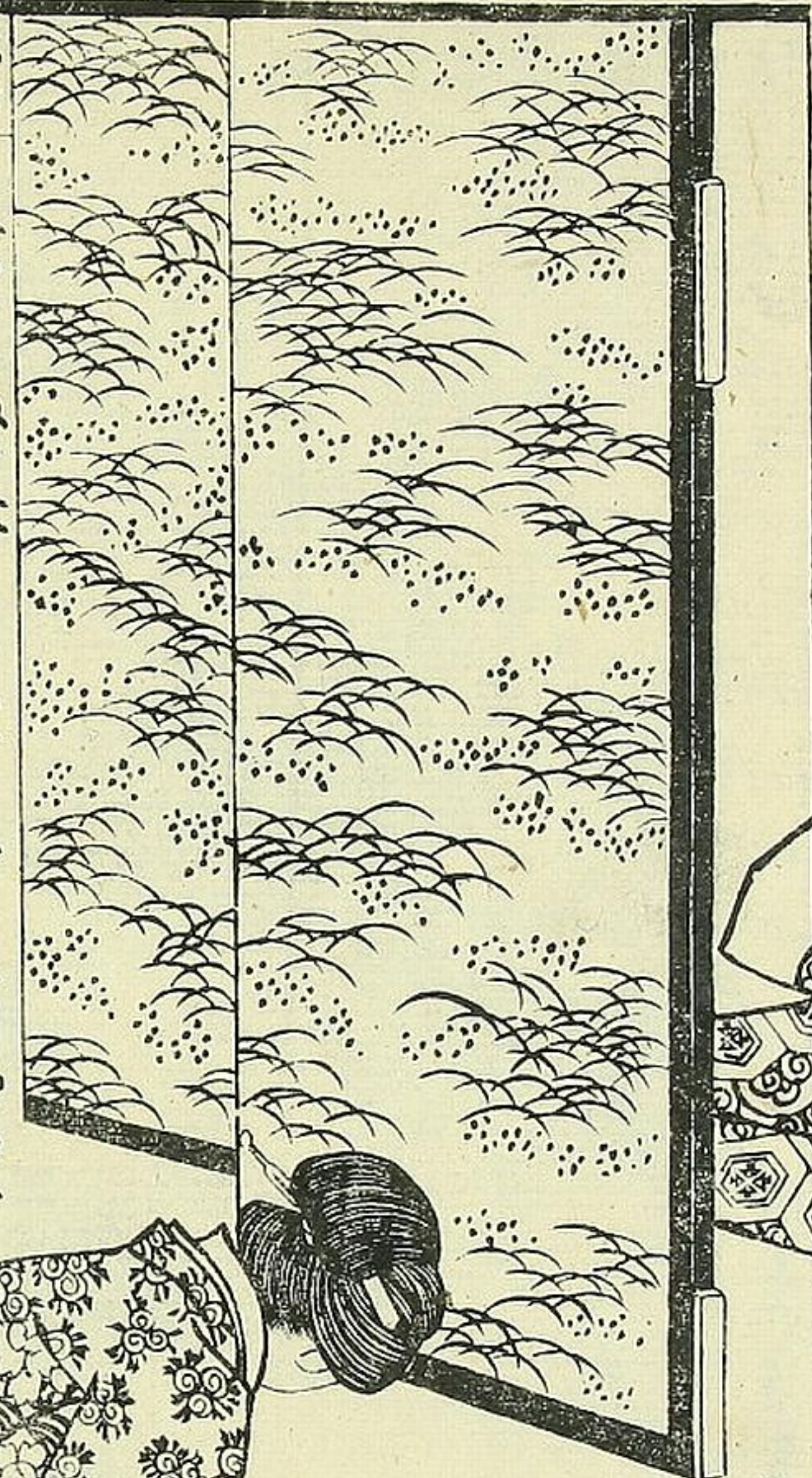
ついでに  
せきふらふらの  
なまのそら  
よりなまのそら  
いかにみよお

あまのそら  
なまのそら  
いかにみよお

あまのそら  
なまのそら  
いかにみよお



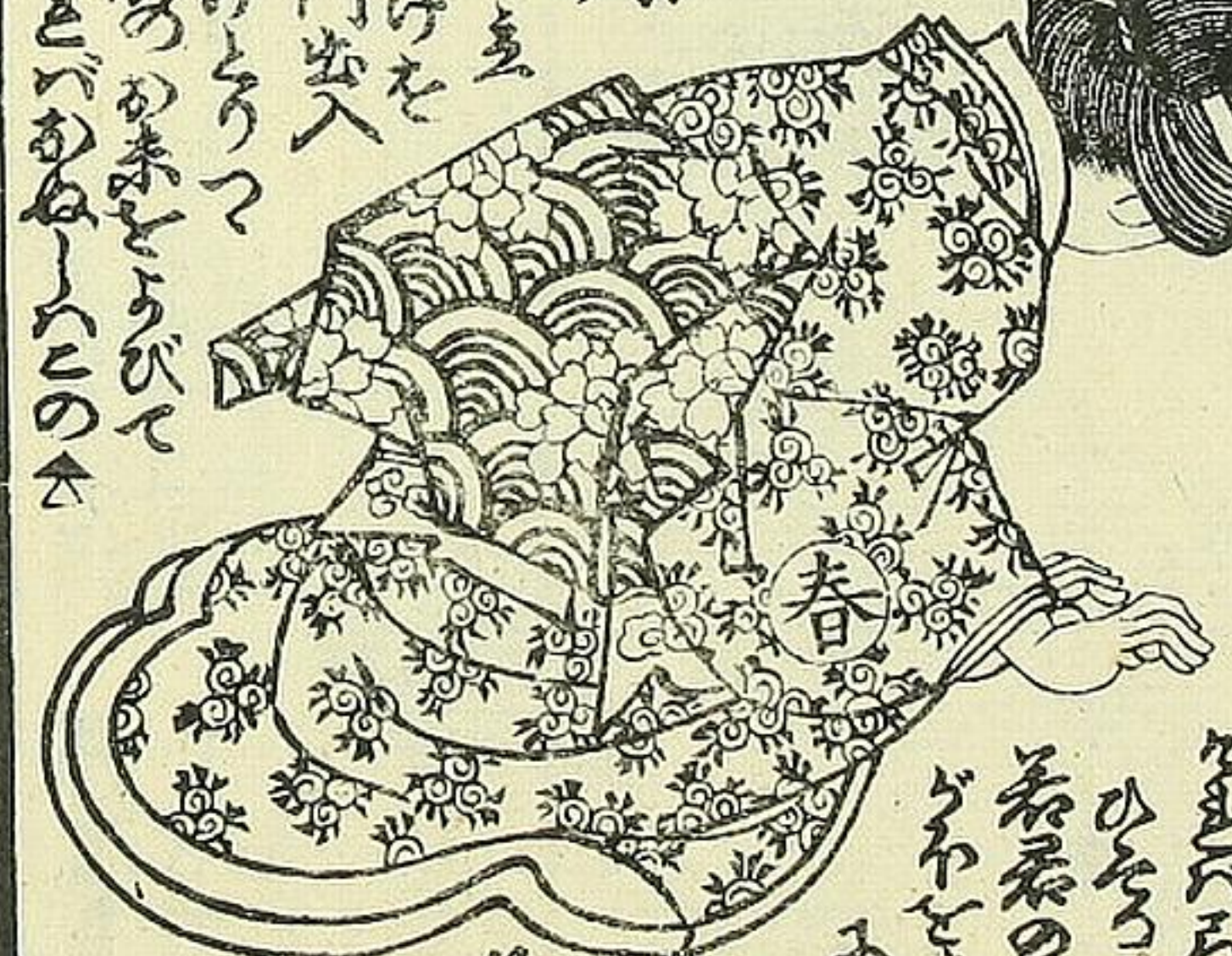
あまのそら  
なまのそら  
いかにみよお



# 万亭應賀作

つぎに... 万亭應賀作の... 万亭應賀作の... 万亭應賀作の...

▲明物お茶  
女中一人俵  
お茶の...  
の切を...  
お茶の...



▲新巻お茶...  
お茶の...  
お茶の...  
お茶の...

編五... 編六... 出板... 任の...

明良二葉抄 初編より追々出板

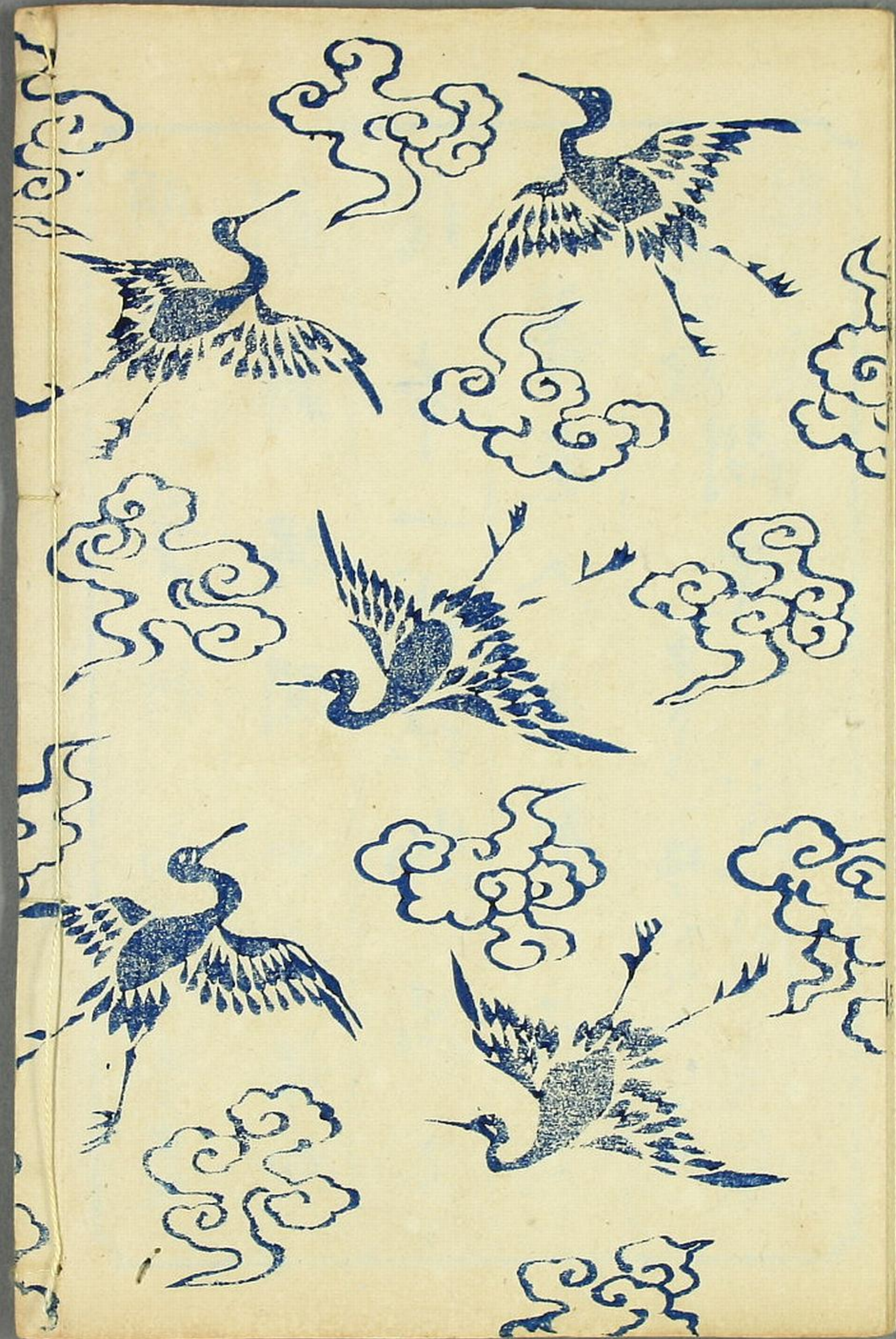
朝鮮異聞 四冊續切

繪奉一代記物 品々

上等色入小本 品々

地本錦繪 問屋 武川清吉

東京日本橋区本銀町二丁目角





万亭燕贺作  
明良二系竹作  
海周延  
画  
编四

耀之紫